

足立区基本構想

答申案

平成 27 年 12 月 24 日

目 次

はじめに	1
------	---

1 基本構想の役割	1
2 基本構想の策定にあたって	1

第1章 これまでの取組みの成果と現状	2
--------------------	---

1 これまでの基本構想の振り返り	2
（1）時代とともに変化してきた基本構想	2
（2）前基本構想に基づく取組みと成果	2
（3）重点プロジェクトの成果	4
2 足立区を取り巻く社会情勢の変化	7
（1）足立区を取り巻く厳しい社会情勢	7
（2）足立区が迎えるチャンス	9

第2章 足立区が目指す姿（将来像）	10
-------------------	----

1 将来に向けて解決すべき課題	10
2 根本となる考え方 ～ 協働から協創へ ～（基本理念）	12
3 目標とする足立区の将来像	13

第3章 将来像の実現に向けた4つの視点 （基本的方向性）	15
---------------------------------	----

視点1【ひと】多様性を認めあい、夢や希望に挑戦する人	16
視点2【くらし】人と地域がつながる 安全・安心なくらし	16
視点3【まち】真に豊かな生活を実現できる 魅力あるまち	17
視点4【行財政】様々な主体の活躍とまちの成長を支える行財政	17

第4章 活力にあふれ進化し続けるために	18
---------------------	----

資 料

はじめに

1 基本構想の役割

基本構想は、足立区が目指すべき将来像と、その実現に向けてまちづくりを進めていくうえでの基本的な考え方や方向性を示すものです。区民と行政がその内容を共有し、同じ目標に向かって進むための指針となります。

2 基本構想の策定にあたって

区民と行政の共通の目標を描くために、基本構想の策定にあたっては次のような考え方で取り組みました。

●長期的な足立区の未来を描く基本構想

新たな基本構想では、変化しつつある社会情勢に柔軟に対応し、足立区が目指すべき姿とその実現に向けて区民と行政が共有すべき基本的な考え方を示します。

区では、これまでの30年間で、高齢化率（65歳以上の方の割合）が7.5%から24.2%に進展し、また、一般会計予算における民生費の支出が454億円から1,261億円へと約2.8倍になるなど、区を取り巻く状況が大きく変化してきました。高齢化はさらに進み、30年後には3人に1人が高齢者となるなど、引き続き大きな変化が予測されることから、今後30年間を見据えた基本構想の策定が必要と考えました。

●区民参画による基本構想の検討

目指すべき将来像が区民と行政の共通の目標となるためには、区民の理解や共感が得られる必要があります。そのため、これまで区政に関わる機会が少なかった世代も含めた幅広い区民参画を求め、基本構想を検討しました。

30年後には足立区を担う中心世代となる「中・高生」をはじめ、「子育て世帯」「単身者」「20歳」「40歳」「シニア」の各世代で無作為抽出等により158名の参加者を募り、足立区の現状と課題や30年後の将来像について語りあいました。座談会で得られた様々なご意見・ご提案は、基本構想について審議する際の基礎資料として活用しました。

第1章 これまでの取組みの成果と現状

1 これまでの基本構想の振り返り

(1) 時代とともに変化してきた基本構想

足立区は昭和47年に「足立区長期基本計画」を、昭和53年には法定計画として最初の基本構想「21世紀に向けて」をとりまとめました。その後、平成4年の改訂を経て、平成16年に新たな基本構想（以下、「前基本構想」という）を策定しました。

平成4年の改訂時は、バブル経済の破綻と重なっていたものの、社会全体は成長基調であり、基本構想における将来像も経済成長が持続することを前提として設定されました。

しかしながら、前基本構想では、当時の社会経済状況について、「大幅な経済成長が望めない中、物質的な豊かさよりも、生活の質の向上を望む方向へ人々の価値観が変化してきている。一方で、地方分権の推進が大きな流れとなり、地方自治体は自らの責任で特色ある自治体経営を行うことが当然のこととなってきた」と整理しています。そのため、「区民生活に根ざした基本構想であること」や、「より重要で緊急な課題を優先して解決していくために選択と集中の基本構想であること」を目指して策定されました。

(2) 前基本構想に基づく取組みと成果

前基本構想では、「協働で築く力強い足立区の実現」を基本理念として掲げ、3つの将来像「1 魅力と個性のある美しい生活都市」「2 自立し支えあい安心して暮らせる安全都市」「3 人間力と文化力を育み活力あふれる文化都市」を定め、様々な分野における区民との「協働」により、その実現に向けて、基本計画等を定めて取組みを進めてきました。

●「1 魅力と個性のある美しい生活都市」に向けた取組みと成果

足立区は23区中第3位の面積を有し、区内には舎人公園等の都立公園をはじめ大小の公園が点在しています。また、区の北西から南東へと荒川が流れているほか四方を川で囲まれていることや、23区でも有数の農業区であることなど、水や緑が多い自然に恵まれた区です。

区内の交通網は、これまでの北千住駅を中心とした都心方向への鉄道路線に加え、つくばエクスプレスや日暮里・舎人ライナーの開業、鉄道駅を結

ぶコミュニティバスの路線増設などにより、公共交通が不便な地域（交通空白地域）が大幅に減少しました。また、都内初の区施行による竹ノ塚駅付近鉄道高架化の事業を進めており、地下鉄8号線（有楽町線）の区内延伸にも取り組んでいます。さらに交通利便性が高まることで、まちが発展・活性化することが期待されます。

加えて、都市計画道路網の整備や土地区画整理事業の進行により良好な都市基盤が整備されているとともに、ゲリラ豪雨などにも対応できる雨水処理により大雨時の冠水被害が少なくなるなど、居住環境が一層充実してきています。

また、区内に点在する既存の密集市街地では、細街路の拡幅整備や木造老朽住宅の耐震化などにより防災性の向上に取り組んでいます。

豊かな自然環境と都心に近い立地を活かした、便利で安心して住み続けられるまちとして区内外から評価が高まりつつあり、転入者の増加にもつながっています。

●「2 自立し支えあい安心して暮らせる安全都市」に向けた取り組みと成果

足立区では他区に類を見ないほど急速に高齢化が進んでおり、平成11年までは23区中22位だった高齢化率が平成26年には第2位となる一方で、生産年齢人口（15～64歳）の割合は平成19年以降最下位となっています。

昔ながらの人情味ある温かいつながりが残る地域では、今でも地域で支えあえる関係が築かれています。一方、平成16年に約64%だった町会・自治会加入率が平成27年には約56%まで減少するなど、特に高層マンションや新たな戸建住宅地など、転入者が多い地域では地域コミュニティの希薄化が進む傾向が見られます。

そうした中、福祉の様々な分野におけるNPOやボランティア等による取り組みや、「地域の安全は地域が守る」という意識による町会・自治会を中心とした取り組みなどが展開されてきました。

また、安心して暮らせるためには社会が持続可能であることが必要であり、足立区でも環境負荷の少ない循環型社会を形成するために、ごみの資源化に積極的に取り組んできました。特に、燃やさないごみの資源化率が約91%（平成26年度）に達したことや、全国で初めて木製粗大ごみの資源化を実施するなど、全国でもトップクラスの実績をあげています。

●「3 人間力と文化力を育み活力あふれる文化都市」に向けた取り組みと成果

足立区では、平成17年に千住地区を中心とした「足立区文化・産業・芸術新都心構想」を策定しました。この構想に基づき、東京芸術センター、シ

アター1010（足立区文化芸術劇場）などを整備したほか、東京藝術大学など複数の大学の進出につながりました。

また、区内での起業支援に取組み、創業支援施設の提供や創業相談などの充実により、企業の成長や区内定着を促進してきました。

このように文化芸術を通して豊かな人格を形成できる環境や、起業したい人を支援する環境を整え、人を育むまちづくりを進めてきました。

（３）重点プロジェクトの成果

足立区では、基本計画に掲げた施策の中で特に重要かつ喫緊の課題を解決するために、平成 21 年度に「足立区重点プロジェクト推進戦略」を策定し、優先的に取り組むべきことを「未来への道標（みちしるべ）」としてとりまとめました。重点プロジェクトは「子ども」「くらし」「まちづくり」「経営改革」の４つの分野から成り立っており、着実に事業を推進してきました。

●教育の質の向上による小学生の基礎学力の向上

全国的に基礎学力の低下が指摘されてきましたが、足立区では他の自治体と比較し学力定着度が低いという課題がありました。学力調査の分析をもとにきめ細やかな学習指導や教員の授業力向上を図った結果、小学生の基礎学力の向上に大きな成果があらわれています。

●区内５大学による大学連携の推進

区内に高等教育・研究機関が少ない点も、学習環境の不十分さの一つとして指摘されてきたため、積極的に大学を誘致し、キャンパスの拡大にもつながってきました。また、区内５大学の学術的な資源を活用して、小・中学校を対象とした各種体験教室、区内産業との共同研究による技術力向上など、様々な連携による成果をあげています。さらに、学長会議を発足し、区との連携のみならず、大学間の連携を進めてきました。

●「おいしい給食」による子どもの食生活習慣の改善

自然の恵みや作り手への感謝の気持ちを育み、バランスよく食べることの重要性や栄養に関する知識を学ぶ機会づくりとして「おいしい給食」を推進してきました。その結果、平成 20 年度には 341 t あった残菜量が平成 26 年度には 162 t と半減し、残菜率も小学校で 9 % から 3 % へ、中学校で 14 % から 7 % へと改善しました。

●「ビューティフル・ウィンドウズ運動」による治安の改善

「割れ窓理論（ブローケン・ウィンドウズ）」を参考に、『「美しいまち」は「安全なまち」』を合言葉に犯罪抑止を図る「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を平成 20 年度から実施しました。平成 21 年度には警視庁生活安全部と「治安再生事業に関する覚書」を取り交わし、さらに、区内 4 警察署とも協定を締結して取組んだ結果、刑法犯認知件数はピーク時（平成 13 年度）の約 16,800 件から平成 26 年度には約 7,600 件と、大幅に減少しました。また、世論調査では平成 25 年度以降、居住地域の治安状況について「良い」と感じる人の割合が「悪い」と感じる人の割合を上回り、区民の体感治安が改善されました。

●「孤立ゼロプロジェクト」による地域での見守り体制の充実

核家族化やコミュニティの希薄化等により地域の中で孤立する高齢者が増えている問題に対応するため、「孤立ゼロプロジェクト」を推進し、地域の高齢者の実態把握や「絆のあんしん協力員」による見守り体制の充実を図りました。「絆のあんしん協力員」は平成 24 年度からスタートし、平成 27 年 11 月末現在、1,010 名が登録されており、平成 27 年 10 月末までに 733 世帯が孤立の恐れのある状態から脱却しました。

●新たな魅力の創出に向けた「エリアデザイン」

エリアデザイン地域に指定することで、大規模な区有地等の利活用について区内外に広く発信し、民間活力の導入を推進してきました。その結果、花畑エリアにおける大学教育施設の誘致、江北エリアへの医療施設の移転などが進んでいます。

●「シティプロモーション」による発信力の向上

足立区のイメージアップ戦略を進めるため、23 区で初めてとなるシティプロモーション課の創設（平成 22 年度）に伴い、民間からの人材を登用し、チラシやポスター等の「伝える力」の向上に力点を置き、区政の透明性を高めてきました。その結果、世論調査における「足立区を誇りに思う区民の割合」が、平成 22 年度の 29.8%から平成 26 年度には 49.4%まで上昇しました。転入者数が転出者数を上回る社会増が、平成 22 年度の 3,249 人から平成 26 年度には 6,218 人に増加していることも、シティプロモーションの効果の一つと言えます。

●区内経済の活性化

区内で製造される優れた製品や巧みな技術などを有する企業を「足立ブランド企業」と認定し、見本市への出展や販売会を実施することで販路を拡大しました。また、新技術の研究に対して助成する「ニュービジネス支援事業」による企業の成長・区内定着を促進し、事業者同士の交流や技術提携にもつながっています。

2 足立区を取り巻く社会情勢の変化

(1) 足立区を取り巻く厳しい社会情勢

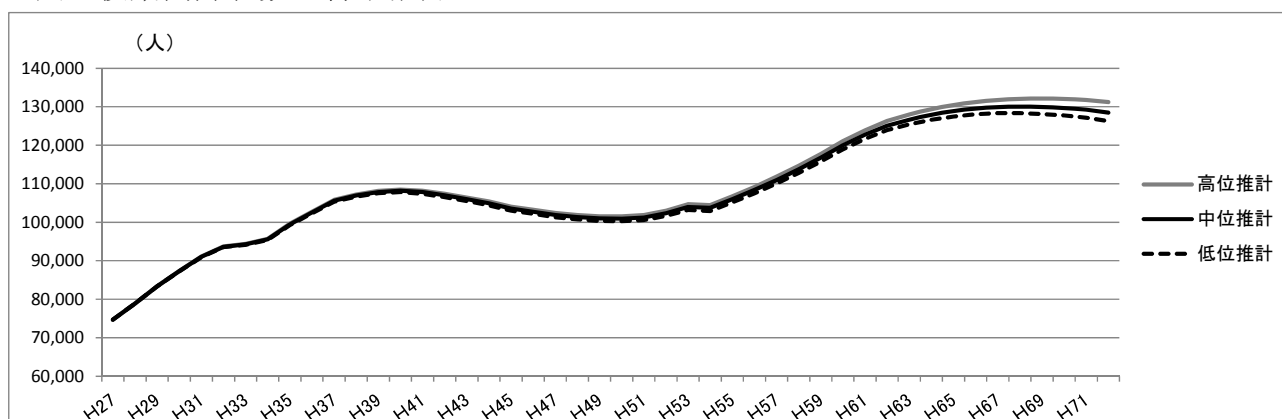
●人口減少・超高齢社会がさらに進展します

足立区の人口は、現状ではやや増加傾向にあるものの、平成 27 年に実施した将来人口推計によると、高齢化の進展等により、長期的には平成 32 年の 68.3 万人をピークに減少に転じるとされています。

また、今後はさらに超高齢社会が進展することが予測され、特に 75 歳以上の後期高齢者数は、平成 27 年と比較して平成 72 年には約 1.7 倍に、後期高齢者比率は約 2 倍となることが見込まれます。

人口減少・超高齢社会の進展は、労働力人口、すなわち担税力のある世代が減少する一方で、介護を必要とする高齢者などが急増することを意味します。このような人口構成の偏りは、扶助費の増加や税収の減少を通じて財政面に大きな負担をもたらします。

図 後期高齢者数の将来推計



●あらゆる面での多様化が進む一方で、地域への帰属意識が低下します

近年、女性の社会進出、非正規雇用の増加、晩婚・非婚などの結婚に対する意識の変化、外国人住民の増加など、家庭・生活・文化等に関わる様々な面で価値観やライフスタイルの多様化が進んでいます。また、地域への帰属意識の低下が顕著となっており、コミュニティの希薄化につながっています。

●「貧困の連鎖」による格差の拡大が懸念されます

生活保護受給者数が大幅に増加するとともに、ひとり親家庭や低所得の外国人家庭など生活に困窮する世帯も増加しています。家庭の経済的な格差から子どもの教育格差が生じ、さらには非正規雇用や無業による生活困窮など、格差の再生産と固定化による貧困の連鎖が大きな課題となっています。

●防災・減災意識をより高める必要があります

平成 23 年 3 月に未曾有の大被害をもたらした東日本大震災は、「自らの命を自分で守る」といった一人ひとりの防災意識を高めるとともに、家族や地域の絆の大切さを再認識する機会にもなりました。足立区では、「災害時の死者ゼロ」を目指して「地域防災計画」を見直しましたが、発生可能性の高い関東圏での大地震に備え、大震災の経験を風化させることのないよう継続的に取り組む必要があります。

●地球規模における環境問題が深刻化しています

温室効果ガスによる地球の温暖化、オゾン層の破壊、廃棄物等の海洋投棄による海水汚染など、様々な環境問題が地球規模で広がっています。足立区では、綾瀬川などの水質改善の成果が出ていますが、家庭でのCO₂排出量が増加傾向にあるなど改善に向けて取り組むべき課題も残されています。

足立区が掲げている「地球にやさしいひとのまち」を目指して、一人ひとりがグローバルな視点で考え、身近なところから環境対策に取り組む姿勢が求められています。

●公共施設の一斉更新や再編などの見直しが求められています

足立区では、公共施設の約 66%が築 30 年以上を経過しており、そのうち約 74%が学校施設となっています。扶助費の増加等による財政制約が強まる状況の中、これらの更新・改修を計画的に行っていかなければなりません。また、区内全域に均一的に整備された公共施設に対して、人口動向の変化により利用状況に差が見られるため、地域の実状に応じた公共施設の再編も求められています。

(2) 足立区が迎えるチャンス

●2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピック

2020 年夏季オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定しました。東京都では、オリンピック・パラリンピック教育を通じた人材育成と多様性を尊重する共生社会づくり、大会による経済効果の最大限の活用などを打ち出しています。

足立区では競技開催の予定はありませんが、オリンピック・パラリンピックを弾みとして区内全体の活性化につながるよう、まちづくり面・教育面でのレガシーを見定めた、区民や民間企業との連携による取組みが期待されます。

●さらなる交通利便性の向上

つくばエクスプレスや日暮里・舎人ライナーの開業による鉄道網が充実し、さらに地下鉄8号線（有楽町線）の区内延伸に取り組んでいます。また、コミュニティバスの路線増設や、都市計画道路の整備による道路網の拡充等、区内の交通利便性は飛躍的に向上しています。

都心に近い立地と交通利便性を強みとし、若者・子育て世代の定着や企業誘致、創業支援などに総合的に取組み、人口構成のバランスの維持や区内経済の活性化につなげていくことが期待されます。

●エリアデザインの推進と大規模団地の建替え等による余剰地の活用

エリアデザインでは、7つのエリアを対象とし、現在は、綾瀬、六町、竹の塚、西新井エリアの取組みを進めています。

また、区内には、都営住宅やUR住宅などの大規模団地が点在しており、いずれも老朽化による建替え時期を迎えています。また、今後は人口減少と同時に少子化が進み、学校の適正配置の検討も必要となります。団地の建替えにより生じる余剰地や学校の空き教室・跡地、ならびに戸建空き家・跡地の活用は、まちを変革する大きなチャンスです。

それぞれの地域の特性やニーズに合わせて、民間活力の導入を図りながら、地域に貢献できる開発や整備を進めることにより、新たな魅力の創出が期待されます。

第2章 足立区が目指す姿（将来像）

1 将来に向けて解決すべき課題

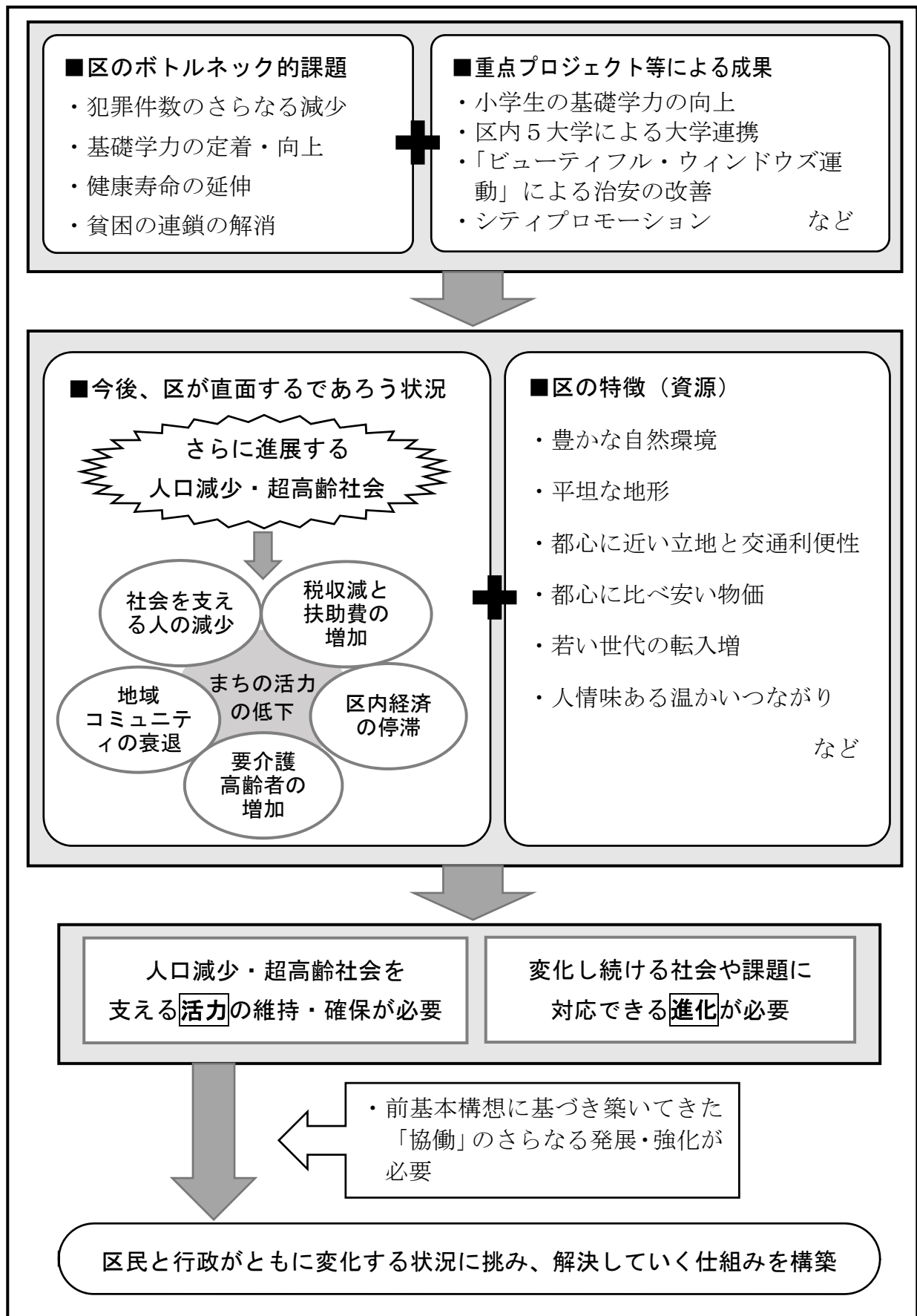
第1章で示したように、足立区では、前基本構想で描いた将来像を実現するための様々な取組みを進め、一定の成果をあげてきました。その結果、若い世代を中心に転入者数が増加傾向にあります。また、都心に比べて物価が安いことに加え、治安の改善や公共交通の充実により住みやすさが向上していること、エリアデザインによる新たな魅力の創出、シティプロモーションによる発信力の向上などにより、くらしやすさに関して区内外からの評価が高まりつつあり、今後の足立区の強みとなりえる特徴や資源が生まれています。

一方で、今後迎える人口減少やさらに進展する超高齢社会により、地域を支える人の減少と負担感の増加、要介護高齢者など支援を必要とする人の増加が予測されます。また、それに伴い、地域コミュニティの希薄化、消費行動の縮小などによる区内経済の停滞、税収減と扶助費増や公共施設の一斉更新による財政負担など、様々な厳しい状況が生じることが予想され、区全体の活力が低下することが懸念されます。また、依然として、犯罪件数のさらなる減少、基礎学力の定着・向上、健康寿命の延伸、貧困の連鎖の解消が、区のボトルネック的課題として残されています。

今後、足立区が直面するこのような課題や変化を克服していくためには、超高齢社会を支えるための「活力の維持・確保」とともに、変化に柔軟に対応できる「進化」が求められます。

そのためには、前基本構想に基づき築いてきた、これまでの行政主導による「協働」を発展させ、区民と行政がともに解決に向けて行動するための新たな仕組みの構築が不可欠です。

図 将来に向けて解決すべき課題



2 根本となる考え方 ～ 協働から協創へ ～（基本理念）

目指すべき将来像を設定するにあたり、区民と行政が共有すべき基本的な考え方を以下のようにまとめました。

足立区では、前基本構想の基本理念や自治基本条例に基づき、「協働」による取組みを進めてきました。これまでの「協働」は、区民と行政が同じ方向を目指し、主に行政から区民や地域、団体に呼びかけや依頼を行い、協力・連携する形で実践されてきました。

しかしながら、これからの時代は、一人ひとりの個性や多様な価値観が尊重され、長い人生を豊かにいきいきと歩んでいけることが求められます。人口減少・超高齢社会のもとで、こうした生き方を実現していくためには、一人ひとりが夢や希望に向かってチャレンジすることで輝くとともに、互いに認めあい、人や地域とゆるやかにつながり支えあうことで力を発揮できる仕組み、すなわち「協創」の構築が必要です。

「協創」とは、これまでの行政主導の「協働」に加え、それぞれの思いを持った区民・地域・事業者・団体等が主体的に考え行動し、必要に応じて互いに連携しながら地域課題の解決に取り組んでいくという新たな考え方です。その中で、行政は、多様な主体をつなげるコーディネーター役を果たします。

「まちをよくしたい」と思う人と人、人と地域、地域と地域がつながることで生まれる、より良いまちを創り上げようとする力を「協創力」と呼びます。「協創力」は、未来に向けて第一歩を踏み出す活力の源であるとともに、進化し続けるために必要なエネルギーともなります。

3 目標とする足立区の将来像

基本理念で述べた、多様な人がつながることで生まれる「協創力」によって目指す、30年後を見据えた足立区のあるべき姿を以下のように掲げます。

協創力でつくる

活力にあふれ 進化し続けるまち 足立

「活力」とは

持続可能な社会を支えるための力であるとともに、進化していくためのエンジンでもあります。

「活力」には、一人ひとりの活力、まちの活力、つながりや新しい動きから生まれる活力など、様々な形があります。足立区に暮らす多様な人々が、一人ひとりの夢や希望の実現に向けて挑戦するとともに、互いに認めあいながら、いきいきと活動することで、まちに活力があふれていきます。そこには人やモノが自然と集積し、つながり、新しい動きが巻き起こります。それが、まち全体の活力として足立区を動かし、進化へとつながるエネルギーとなります。

「進化」とは

今後起こり得る変化に柔軟に対応し、課題を克服し、危機的状況を乗り越えていくことです。

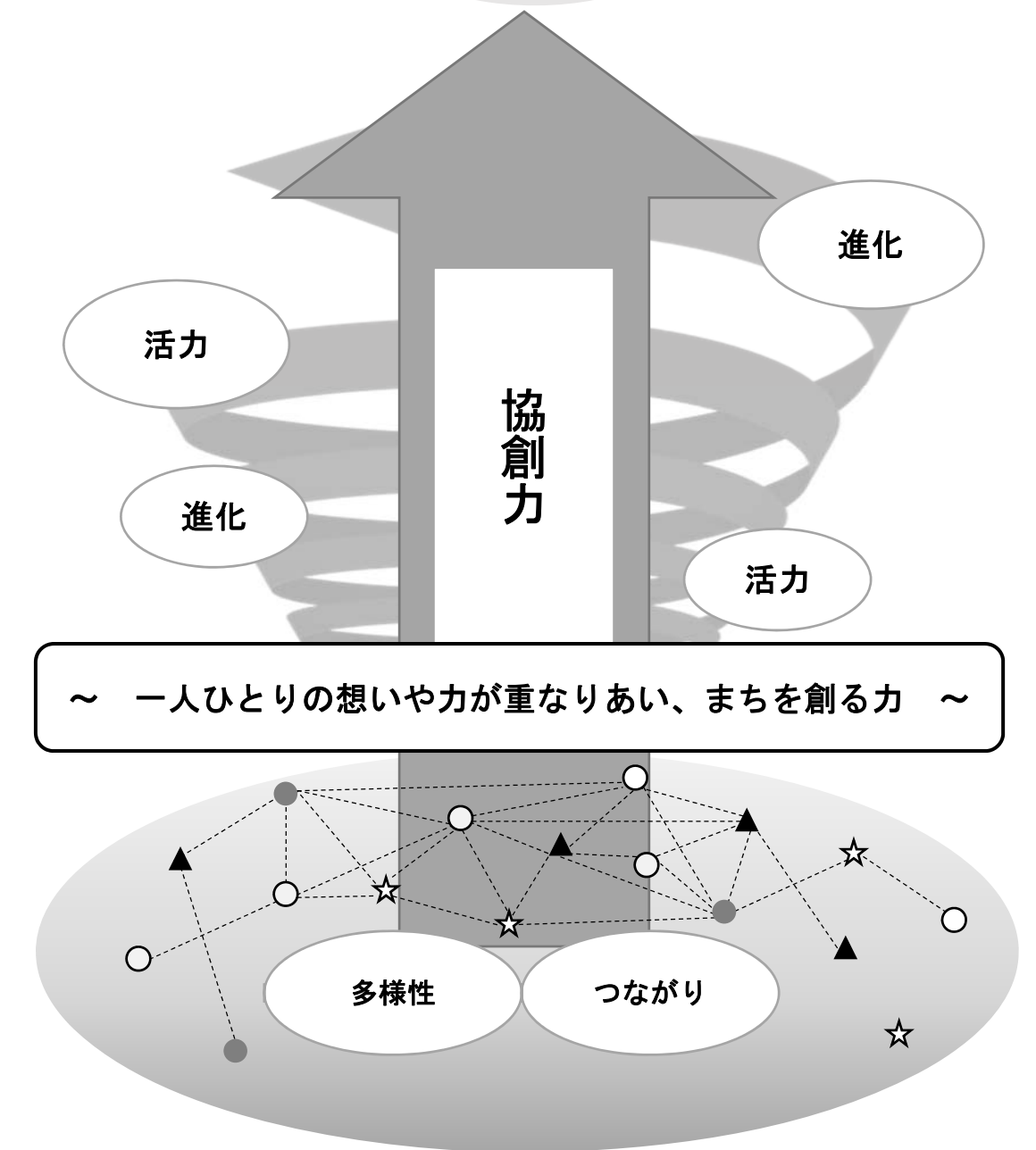
「進化」には、一人ひとりの成長、人と人とのつながりの深まり、まちの発展、行財政の改革など、様々な形があります。人やまち、行政が進化することによって、より幅広い多様性の受容が進み、変化に対する対応力が高まります。

人やまちが進化することによって、新たな活力を呼び起こし、その力がさらなる進化につながります。

足立区の将来像

「協創力でつくる

活力にあふれ 進化し続けるまち 足立」



第3章 将来像の実現に向けた4つの視点

(基本的方向性)

足立区では多くの人が住み・働き・学び・活動し、日々の暮らしを営んでいます。将来像の実現に向けたまちづくりに求められる視点としては、まず、日々の暮らしの主演であり、まちづくりの担い手でもある「ひと」がいて、その人々が営む日々の「暮らし」があり、その暮らしが展開される舞台となる「まち」があります。さらに、「ひと」「暮らし」「まち」を支える「行財政」が必要となります。

ここでは、将来像を実現するために、「ひと」「暮らし」「まち」「行財政」がどうあるべきか、という基本的方向性を整理します。



視点1 【ひと】多様性を認めあい、夢や希望に挑戦する人

足立区には、年齢の違い、障がいの有無、生活習慣、価値観や生き方を異にするなど、様々な人々がくらしています。画一的な基準で縛られることなく、その人らしさが受け入れられる社会は、誰にとってもやさしく生きやすい社会でもあります。そうした社会の中で、一人ひとりが夢や希望をもち、その実現に向かって自分が選択した道を歩むことができれば、誰もが幸せを感じられ、まちに笑顔があふれてきます。

子どもから高齢者まで、互いを認めあい、生涯にわたって健康でいきいきと活躍しながら、グローバルな視点を持って夢や希望に挑戦する。そのような活力にあふれる人をみんなで育み支えていきます。

視点2 【くらし】人と地域がつながる 安全・安心なくらし

人は一人では安心して生きていくことはできません。子どもを地域で見守り育む、支援が必要な人を地域で見守り支えあう、そうしたつながりが日々に安心感をもたらします。また、人がいきいきと活躍するためにも、くらしの安全・安心は必要不可欠です。

このような環境は、一人ひとりが自分のくらす地域に愛着を感じ、その愛着から「地域をよくしたい」という思いが芽生え、その思いがつながっていくことで、初めて醸成されていくものです。

一人ひとりが治安や防災、環境などを意識しながら日常生活を送るとともに、足立らしい近所づきあいや地縁によるつながり、趣味や価値観を同じくする人同士による新たなコミュニティなどを育みながら、様々な人や地域、組織（NPO、民間企業等）が密接に結び付くことで安全・安心なくらしを確立していきます。

視点3 【まち】真に豊かな生活を実現できる 魅力あるまち

身近な水や緑と広い空、子どもが自由に遊び大人がその様子を見守っている公園、ぶらりと立ち寄りたくなる下町情緒のある路地など、足立区には生活の中で実感できる良さがたくさんあります。一方で、交通利便性が良く、都心にもアクセスしやすいことから、通勤・通学先やお出かけの楽しみ方などの選択の幅が広がっています。このように、足立区は、日常生活で穏やかな幸せを感じられ、華美ではないまでも質の高い暮らしができるまちです。

誰にとってもやさしく暮らしやすい安全な都市基盤を整え、一人ひとりが自分らしく過ごすことができ、いつまでも住み続けたいと思えるまちを実現していきます。また、まちの活力を維持するために、区内経済の活性化に向けた取組みをさらに進めるとともに、足立区がもつ資源を再発見・再認識し、そこに新たな視点や発想を加え、足立区独自の魅力をつくり出していきます。

視点4 【行財政】様々な主体の活躍と

まちの成長を支える行財政

足立区に関わる様々な主体や、活躍の舞台となるまちが活力にあふれ進化し続けるためには、それらを支える行財政が区民ニーズを的確に把握し、常に必要な施策を戦略的に展開していかなければなりません。区民の活動を支えるために必要な情報を提供したり、区民や行政による取組みの成果や足立区の魅力を、わかりやすく広く内外に発信していくことも重要です。

今後の人口減少や超高齢社会の中では、将来の財政状況を見極めるとともに、次世代への過度な負担を極力減らし、限られた資源や人材を有効に活用しながら持続可能な行財政運営を進めていきます。

第4章 活力にあふれ進化し続けるために

足立区に暮らし人々が「このまちでくらせて良かった」と心から思い、真の豊かさを実感するために、区の将来像として「協創力でつくる 活力にあふれ 進化し続けるまち 足立」を掲げました。

将来像の実現に向け、以下の取組みを進めるように求めます。

●自立した人を育み、多様性が受け入れられる地域社会の構築

年齢の違いや障がいの有無などにかかわらず、一人ひとりがあるがままに受け入れられ、尊重される地域社会の構築が求められています。そのためには、誰もが夢や希望の実現に向け、自立して生活でき、真にたくましく生き抜く力を身に付けるとともに、多様性を受容し世界に開かれた視野を持つ人を育むための教育の充実を求めます。

●未来に向けた協創体制の構築

今後直面する課題や困難を克服し、将来像を実現するためには、これまでの行政と区民との協働に加え、区民自らが考え行動を起こし、互いに連携することが期待されます。行政は、他方面にわたる区民主体の活動を積極的に支援するとともに、それぞれが連携を密にすることでより効果的な活動が展開されるよう、コーディネート機能を最大限に発揮し、協創体制を構築することを求めます。

●誰もが健康で活躍できる、バランスの良い人口構成の維持

持続可能な自治体であるためには、人口減少・超高齢社会においても年少人口及び生産年齢人口の構成バランスに特段の配慮が必要となります。都心からも近く複数の大学が立地している状況を活かし、ソフト・ハード両面から若い世代が転入しやすいまちづくりを進め、若年層や子育て世代の定着・定住を図ることが望まれます。また、あらゆる世代を通じた健康づくりを推進し、高齢者がいくつになっても元気で活躍できるようなまちの実現を求めます。

●計画的かつ戦略的な行財政運営

担税力のある世代の減少による税収減や、支援が必要な高齢者の増加による扶助費増などにより、今後はさらに厳しい財政状況が予測されます。その中でも、長期的な視点から効果的な取組みを見定め、計画的かつ戦略的な施策を展開することで、メリハリをつけて限られた資源や人材を有効に活用していくことを求めます。

資 料

- 1 足立区基本構想審議会委員名簿
- 2 足立区基本構想審議会審議経過
- 3 足立区基本構想審議会条例
- 4 足立区基本構想審議会条例施行規則
- 5 足立区基本構想審議会公開要綱
- 6 (参考) 各専門部会の検討結果シート

足立区基本構想審議会委員名簿 （全 39 名）

氏 名	所属・役職 等	専門部会	備 考
牛山 久仁彦	明治大学政治経済学部教授	－	会 長
田中 充	法政大学社会学部長	まちづくり	副会長、 部会長
村上 祐介	東京大学大学院教育学研究科准教授	子ども	部会長
石阪 督規	東京未来大学モチベーション行動科学部教授	くらし	部会長
田中 隆一	東京大学社会科学研究所准教授	経営改革	部会長
有馬 康二	足立区町会・自治会連合会会長	まちづくり	副部会長
足立 義夫	足立区商店街振興組合連合会代表理事	経営改革	副部会長
須藤 秀明	一般社団法人 足立区医師会会長	くらし	
乾 雅榮	足立区女性団体連合会会長	まちづくり	
吉田 修一	西新井防犯協会会長	まちづくり	
小久保 兼保	足立区障害者団体連合会会長	くらし	副部会長
野辺 陽子	足立区民生・児童委員協議会第五合同会長、 鹿浜地区会長	子ども	副部会長
河本 孝美	足立区立小学校 P T A 連合会副会長	子ども	
小林 雅行	足立区立中学校 P T A 連合会副会長	子ども	
田中 忠穂	東京スマイル農業協同組合代表理事副組合長	まちづくり	
近藤 勝	東京商工会議所足立支部副会長	経営改革	
鈴木 健文	連合東京東部地域協議会足立地区協議会副議長	くらし	
石橋 穠治	公 募 委 員	経営改革	
大塚 和夫	公 募 委 員	くらし	
北川 千恵子	公 募 委 員	経営改革	
志自岐亜都子	公 募 委 員	子ども	
白根澤 正士	公 募 委 員	まちづくり	
長谷川 浩一	公 募 委 員	まちづくり	

早木 美恵	公 募 委 員	子ども	
益留 有紀	公 募 委 員	くらし	
鴨下 稔	足立区議会議員	まちづくり	
吉岡 茂	足立区議会議員	まちづくり	
渡辺ひであき	足立区議会議員	子ども	
馬場 信男	足立区議会議員	くらし	
ただ 太郎	足立区議会議員	経営改革	
たがた 直昭	足立区議会議員	くらし	
長井まさのり	足立区議会議員	まちづくり	
岡安 たかし	足立区議会議員	子ども	
くぼた 美幸	足立区議会議員	経営改革	
ぬかが 和子	足立区議会議員	経営改革	
鈴木けんいち	足立区議会議員	子ども	
おぐら 修平	足立区議会議員	くらし	
石川 義夫	副 区 長	経営改革	
定野 司	教 育 長	子ども	

※備考の分類について

- ・「会 長」 ＝ 足立区基本構想審議会会長
- ・「副 会 長」 ＝ 足立区基本構想審議会副会長
- ・「部 会 長」 ＝ 各専門部会の部会長
- ・「副部会長」 ＝ 各専門部会の副部会長

※専門部会別の人員

- ・子ども専門部会 ： １０名
- ・くらし専門部会 ： ９名
- ・まちづくり専門部会 ： １０名
- ・経営改革専門部会 ： ９名

足立区基本構想審議会審議経過

No.	会 議 名	日 程	主な議題
1	第1回基本構想審議会 〈全体会〉	H27.7.27 午前	1 委嘱式 2 諮問 3 検討素材・概要説明
2	第2回基本構想審議会 〈全体会〉	H27.8.5 午前	1 検討素材・全体説明 2 区の実施の成果・説明 3 現状と将来の課題について意見交換
3	第3回基本構想審議会 〈全体会〉	H27.8.31 午後	1 区民あだちサロン、中・高生ワークショップ（7月実施）における意見や将来像等の報告 2 今後取り組むべき課題について意見交換 3 各専門部会に調査研究を付託
4	第1回くらし専門部会	H27.9.14 午前	1 現状と将来の課題について意見交換
5	第1回子ども専門部会	H27.9.15 午後	1 現状と将来の課題について意見交換
6	第1回まちづくり専門部会	H27.9.17 午前	1 現状と将来の課題について意見交換
7	第1回経営改革専門部会	H27.9.24 午後	1 現状と将来の課題について意見交換
8	第2回まちづくり専門部会	H27.9.25 午前	1 人口推計の報告 2 将来像、基本理念の考案
9	第2回くらし専門部会	H27.9.28 午前	1 人口推計の報告 2 将来像、基本理念の考案
10	第2回子ども専門部会	H27.9.29 午前	1 人口推計の報告 2 将来像、基本理念の考案
11	第2回経営改革専門部会	H27.10.22 午後	1 人口推計の報告 2 将来像、基本理念の考案
12	第3回まちづくり専門部会	H27.10.23 午前	1 将来像、基本理念のまとめ
13	第3回くらし専門部会	H27.10.26 午前	1 将来像、基本理念のまとめ

14	第3回子ども専門部会	H27. 10. 26 午後	1 将来像、基本理念のまとめ
15	第3回経営改革専門部会	H27. 11. 5 午後	1 将来像、基本理念のまとめ
16	第4回基本構想審議会 〈全体会〉	H27. 12. 2 午前	1 各専門部会の調査研究結果を報告 2 答申の章立て、骨子について検討
17	第5回基本構想審議会 〈全体会〉	H27. 12. 24 午後	1 基本構想・答申のまとめ
18	第6回基本構想審議会 〈全体会〉	H28. 2. 4 午前	1 基本構想・答申のまとめ
19	第7回基本構想審議会 〈全体会〉	H28. 2. 25 午前	1 区長に答申